

WOLFGANG AMADEUS MOZART



岡山シンフォニーホール開館25周年記念

モーツアルト：ヴァイオリン協奏曲 第4番 ニ長調 K.218

Vn. 堀米 ゆず子

モーツアルト：「レクイエム」ニ短調 K.626

ソプラノ：秦 茂子

Shigeko Hata, soprano

メゾソプラノ：アンナ・モロツ

Anna Moroz, mezzo-soprano

テノール：セサル・アリエタ

César Arrieta, tenor

バリトン：アイザック・ガラン

Isaac Galán, baritone

合唱：岡山バッハカンタータ協会

岡山県合唱連盟 記念合唱団

合唱指揮：佐々木正利

2016年 11/19 (土) 15:00開演 [14:00開場]

岡山シンフォニーホール

入場料：S=5,000円 A=4,000円 B=3,000円 Bユース=1,000円

*友の会会員は10%割引 *チケット発売日：友の会/7月10日・一般/7月17日

プレイガイド【岡山】岡山シンフォニーホールチケットセンター 086-234-2010

岡山県音楽文化協会 086-224-6066

ぎんざや 086-222-3244

天満屋バスステーションチケットセンター 086-231-7679

岡山市民会館 086-223-2165

山陽新聞社サービスセンター 086-803-8222

イオンモール岡山チケットセンター【金・土・日のみ】 086-941-8818

【倉敷】インディスク 086-422-1457

【福山】スガナミ楽器 084-923-6150

【その他】チケットぴあ (P コード : 289-675) 0570-02-9999

ローソンチケット (L コード : 65682) 0570-084-006

●この公演は岡山シンフォニーホールチケット
WEB予約(下記URL)からご購入可能です。
<https://www.okayama-symphonyhall.or.jp/ticket-re/>



Requiem aeternam

モーツアルトの生地から永遠の安息

ハンス・シエルク・シェレンベルガー 指揮
カメールータ・ザルツブルク岡山公演

Hansjörg Schellenberger conducts
Camerata Salzburg



主催：(公財)岡山シンフォニーホール 共催：岡山市、TSCテレビせとうち

指揮：ハンスイエルク・シェレンベルガー

Hansjörg Schellenberger



1948年生まれ。13歳（1961年）からオーボエのレッスンを受ける。1965年17歳のときにドイツの音楽コンクールで1位になり、奨学生としてアメリカのインターローケン国際ミュージックキャンプに参加。1967年に学校卒業後、ミュンヘンとデトモルトにおいてオーボエ、指揮法、そして数学を勉強する。ミュンヘンのARDコンクール（1972年）を含む主要な音楽コンクールで入賞後、1975年から1980年までケルン放送交響楽団のソロ・オーボエ奏者となる。1980年1月から2001年夏までカラヤン指揮ベルリン・フィルのソロ・オーボエ奏者を務める。

その後30年間のオーケストラ活動に終止符を打ち、指揮者、ソリストの仕事に焦点を当てるようになった。

彼は長年に渡って世界的に有名なオーボエ奏者であり、1991年にはハイドン・アンサンブル・ベルリンを設立、芸術監督を務めている。また、ベルリン・フィルの団員として、彼はベルリンでコンサートをする全ての偉大な指揮者たちから音楽解釈や指揮法自体を学んでいた。1994年からは指揮者としての活動を開始、世界の著名なオーケストラから招かれており、日本でも多くのオーケストラに指揮者として出演。

2013年から岡山フィルハーモニック管弦楽団首席指揮者に就任。



ソプラノ

秦 茂子
Shigeko Hata



メゾソプラノ

アンナ・モロツ
Anna Moroz



テノール

セサル・アリエタ
César Arrieta



バリトン

アイザック・ガラン
Isaac Galán

国立音大、昭和音大大学院を経てフランス国立高等音楽院を首席で卒業。2007年リリナディア・ブランジェコンクールにて1位入賞。パリ国立高等音楽院在学中にモーツアルト「フィガロの結婚」伯爵夫人役にてオペラデビュー。その後「コジ・ファン・タウテ」のフィオルディーリ、ブッチーニ「ラ・ボエーム」のミミ、R.シュトラウス「アラベッラ」のズデンカ、ブッチーニ「蝶々夫人」のタイトルロールなどをパリ、エクサンプロヴァンス、モンテカルロ他で歌う。パリのアンサンブル・アンテルコンタンボランなど現代音楽のグループとの共演も多い。日本では2010年に名古屋フィル定期でデビュー。以来、数多くのオーケストラから招かれる。

1981年、ウクライナ生まれ。オデッサ音楽院などで研鑽を積む。2007年にイタリアへ渡り、2010年度よりマドリッドのソフィア王妃高等音楽院にてトム・クラウゼ、ヘレン・ドナートなどに師事。2014年8月に第1回メディナセリ声楽コンクールで1位入賞。これまでに、オデッサオペラ・バレエ劇場、キエフ国立オペラ・バレエ劇場、スペイン国立音楽堂などで「カルメン」のタイトルロール、「蝶々夫人」のズスキ、「リゴレット」のマダゲレーナ、「椿姫」のフローラ役、などを演じる。シェレンベルガー、アントニ・ロス・マルバ、ヘスス・ロベス・コボスなど多くのマエストロから評価されている。

1990年、ヴェネズエラ生まれ。シモン・ボリバル音楽院でソプラノ歌手サラ・カタリーネに師事。2012年よりマドリッドのソフィア王妃高等音楽院においてテノール歌手ライランド・ディヴィスに師事。またトム・クラウゼ、テレサ・ベルガンサ、ヘレン・ドナートといった著名な歌手たちのマスタークラスに参加。スペイン国内はじめアムステルダム、リガ、リスボン、ヴェローナ、ブリュッセルなど、ヨーロッパの20を超える都市で歌っている。昨夏はドイツのパート・ヴィルトバートで開催されたロッシーニ・オペラ・フェスティバルに参加し、「シチリア島の夕べの祈り」（リンドバントナー作曲）のドルーエ侯爵を歌い、好評を博した。

1981年、スペイン・サラゴサ生まれ。地元の学校で声楽の手ほどきを受けた後、マドリッドのソフィア王妃高等音楽院に進み、テレサ・ベルガンサ、トム・クラウゼに師事。その後、チューリッヒ歌劇場のオペラ・スタジオで1シーズンの間研究生として研鑽を積む。これまでにソリストとしてメータ、ムーティ、マゼール、バッティストーニ、カンブルラン等の著名指揮者と共に演奏。3シーズンにわたりリンツ州立劇場でファースト・バリトンのソリストを務め、「セビリアの理髪師」のフィガロ、「フィガロの結婚」の伯爵、「魔笛」のパパゲーノ他を歌った。さらに、様々な役でマドリードの王立劇場を始めとする世界の一流劇場で活躍。



カメラータ・ザルツブルク

Camerata Salzburg

カメラータ・ザルツブルクは、1952年にザルツブルク・モーツアルテウム音楽大学の学長でもあった指揮者ベルンハルト・バウムガルトナーによって設立され、一連のモーツアルト・マチネによって、瞬く間にザルツブルク音楽祭の中核を成す存在となつた。

バウムガルトナー、アントニオ・ヤニグロに続き1978年からヴァイオリニストのシャンドール・ヴェーグが音楽監督となり、優れた若い奏者達をカメラータに招き入れた。ヴェーグは、弦楽四重奏といふ、演奏の理想的な形をより大きい編成のレベルで実現し、個々のメンバーが集団の中で、そして集団のために演奏する方法を促進した。ヴェーグが亡くなった後、1997年からはノリントン、2007年からはレオニダス・カヴァコス、2011年からはルイ・ラングレが指導的立場にある。シェレンベルガーはゲスト指揮者として定期的に招かれており、ソニーとレコーディングも行っている。ザルツブルクでコンサートとオペラのオーケストラとして、ザルツブルク音楽祭とザルツブルク・モーツアルト週間の常連であり、モーツアルテウム大ホールでは、自ら定期公演のチカルスを開催している。さらに、ウィーン、ハンブルク、ベルリンなどに定期的に出演、多くの音楽祭にも招かれている。2012年秋にはシェレンベルガーの指揮の下、12公演にわたる日本ツアーを行い大成功を収めた。

堀米 ゆづ子（ヴァイオリン）

YUZUKO HORIGOME, Violin



5歳からヴァイオリンを久保田良作氏のもとで始め、1975年より江藤俊哉氏に師事。80年桐朋学園大学卒業。同年エリーザベト王妃国際音楽コンクールで日本人初の優勝を飾る。以来ベルリン・フィル、ロンドン響、シカゴ響、アバド、小澤、ラトルなど世界一流のオーケストラ、指揮者との共演。2013年からイタリアのカメラータピチーナ、14年からはイギリスのケンブリッジに於いてマスタークラスを開催。

14年チェコ・フィルと収録したブラームスのヴァイオリン協奏曲、ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲のCDを全世界でリリース、16年、待望のニューアルバム「J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ全曲集」をリリースした。また、多くの国際コンクールの審査員にも招かれており、16年、仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門審査員に就任。15年には、春秋社より著書「ヴァイオリニストの領分」を刊行。現在、ブリュッセル王立音楽院教授。使用楽器は、ヨゼフ・グアルネリ・デル・ジェス（1741年製）。

公式ホームページ：<http://yuzuviolin.com/>

合唱：岡山バッハカンタータ協会

Okayama Bach Kantaten Verein

1985年、小澤征爾の指揮によるバッハ「口短調ミサ曲」の演奏会をきっかけに結成。指揮にバッハのスペシャリストである佐々木正利氏を迎えて現在に至る。

1993年ヘルムート・ヴィンシャーマン指揮バッハソリストン、2007年ベーター・シュライヤー指揮アンサンブル金沢と、2010年ヘルムート・リーリング指揮で「受難曲」やミサ曲をいずれも岡山、東京で共演し、ライブCDを発売。世界の冠たるバッハ指揮者より信頼を得て高い評価を獲得。また、度々渡欧して演奏活動を行う中、2011年5月、東日本大震災復興支援のためのチャリティーコンサートをライブソフィー「聖トマス教会」が主催。日本を代表して復活の祈りを込めて献奏。2012年新イタリア合奏団と共に、イタリアの音楽フェスティバルに出演、好評を博すなど地方都市岡山を本拠地とする芸術性の高い合唱団として活躍。